

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100026		
法人名	株式会社 シェイクハンズ		
事業所名	グループホーム 清水の里		
所在地	〒815-0031 福岡県福岡市南区清水3丁目5番13号 TEL092-551-0008		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果確定日	平成23年09月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohvo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年09月07日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者の方の個性を大事にし職員と利用者が強い信頼関係で結ばれている所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「清水の里」は、住宅街の中に、寮を改築した木造2階建てのグループホームである。毎年、少しずつ改築しながら、安全面に配慮し、家庭的な雰囲気を作り出す等、和やかで、落ち着いた環境である。「利用者が、健康で、楽しく、生きがいを感じる生活で、家族が安心出来るグループホームを目指す」という、オーナーの熱い思いを、職員全員が理解し、チームワークの取れた職員が、利用者を家族のような関係で支える様子は、来訪者に、笑顔と感動を与えている。主治医による往診は、利用者に健康を取り戻し、24時間の医療連携体制と、バランスの取れた美味しい食事で、利用者の身体機能維持に繋げている。また、地域の清掃活動や行事に、利用者職員が参加し、近所の保育園との交流は利用者の楽しみの一つである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、理念に基づいた介護に取り組み、利用者の方々の日々の変化を共有し、適切な配慮が出来るように、毎月第三土曜日にスタッフ会議を開催（職員全員参加）。また連絡ノート、介護記録、伝言等で取り組んでいる。	「ここだったら親を安心してあずけられると家族に納得してもらえるホームに」とのオーナーの想いを具体的に表した理念である。オーナーの姿勢を全ての職員が共有し、温かく家庭的で穏やかな介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の諸会社とのお付き合い。（ホームで必要なときは、近隣の会社を利用し協力しています。） 保育園との交流。自治会の廃品回収の協力。自治会のふれあいサロンとの交流。	公園改修会議への出席や廃品回収の協力等、地域の一員として積極的に活動している。ホーム行事の、敬老の日や祭りの日には、近くの保育園児が訪れ利用者とお過ごし等、地域の人と共に暮らす生活がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度（奇数月の第三土曜日）の運営推進会議や町内会への参加等を通じて認知症の方の理解や支援の方法を活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価が毎年行われていますが、その都度評価への取り組みや、報告を行っています。（今年で五回目）	毎回昼食会をかねた運営推進会議を開催し、ホームで検討中の課題等をその都度報告し、積極的に意見や助言をもらっている。避難訓練に関する具体的な提案等、サービスに反映させたものも多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市の介護課や包括支援センターと常に連絡を取り合い、施設の取り組みを説明したり、包括支援センターの取り組みも地域の方に話しています。	市の担当者や地域包括支援センター職員と常に意見交換をし、地域住民の橋渡しをしたり、現在検討中の独居高齢者の見守りなどの支援について働きかけをする等、双方向的な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、内部研修を開き勉強をおこなっています。マニュアルの見直しも常におこなっています。利用者の方の怪我等のよりどうしようもない場合は、拘束廃止委員会を開催し、又御家族にも説明し同意を得ておこなう場合もありますが、なるべくしないように努力しています。玄関の鍵は、夜間以外は、常に開けています。	車椅子のベルトの固定も身体拘束と捉え、ゆったりとかけたまま移動可能な椅子を考案したり、廊下にクッション性の素材を敷く等、様々な工夫をし身体拘束をしないケアを実践している。近隣住民との顔見知りの関係が築かれている事も、安全を確保する上で心強い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての外部研修への参加や、内部研修を行い、常日頃から注意を払い虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援しています。(現在一名成年後見制度を利用しています。)	判断能力の低下した利用者が、不利益を被る事がないよう成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する資料を備え、利用者、家族に説明している。利用者の権利や財産を守る為、積極的に支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に明示している。又家族との面談は重要視して充分におこなっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関のロビー設置している。又日々の生活の中で、不満足意見、苦情を聞き、日頃の運営に反映するようにしています。	家族の訪問時や、行事等様々な機会を捉え家族の意向を聴いている。家族会では自由に意見や要望が言えるよう、職員が席をはずす事もある。利用者の家族の入院時は見舞いに行き、利用者に対する心配事などを聴き、安心してもらえるよう伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々ありますが、月に1度のスタッフ会議には、全員参加し納得いくまで話し合い、職員の提案に耳に傾け改善出来る事は受け入れお互いに理解しています。	利用者、家族、職員、職員の家族まで、家族と捉え、大切にしているオーナーや施設長は、職員からの信頼も厚く何でも相談出来る関係である。全職員参加の会議では活発な意見交換がなされサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の話に耳を傾け、努力しています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては本人の人柄次第です。当事業所には、20代～60代の職員がいます。又介護に関する資格を取得した職員には(非常勤であっても)資格手当を出して励まし認めています。	職員の採用にあたって制限は設けていない。定年制もなく、意欲のある人は60歳をすぎても働き続けることができ、長年の経験を活かし仕事に従事している。休憩室やロッカーもあり、休憩時間も確保されている。また、資格取得を目指す職員には、勤務ローテーションを配慮する等の支援をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や、内部研修を行っています。又毎月のスタッフ会議にて人権、人間の尊厳について話し合いをおこない、申し送りノートでも伝えていっている。	最も重要視している研修の一つで、全員が外部研修に参加している。月に一度の、全職員参加の会議でも必ず人権について取り上げている。職員は、常に人生の先輩から学ぶ姿勢を持ち、利用者との対応に心がけている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を事務所に置き研修への参加を進めています。又研修への参加の際には、日々の人材配置にも考慮しています。研修後には、レポートを書いていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学、電話、メールでの相談しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に見えられた時や、電話がかかってきた時に困っている事や、不安な事を相手の立場に立って考え、それを支え、援助していく方法を説明しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の家に訪問したり、施設に訪問された時などによく話を聞き、支援していく方法を説明し安心していただくようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相互理解が出来るまでしっかり話し合いをおこない、又サービスについてや介護全般についても助言しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や、後片付け、洗濯物干しやたみ。自室の掃除や手すりふき、庭の掃除や草取り、お花への水やり等を利用者と一緒におこなっている。そんな中利用者の方から昔の知恵等を教わる事があります。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時等に食事介助やトイレ誘導、病院受診の同行等をおこなって頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく途切れないように支援しています。	利用者の友人や知人の訪問を歓迎し、温かくおもてなししている。ホームを訪れる人も多く、利用者との会話を懐かしむこともある。冠婚葬祭には家族の協力を得て、なるべく参加しこれまでの関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話題やゲームを提供し、役割や作業を通して、お互いに関り、支え合うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても、その施設に面会に行ったり、電話等で常に連絡を取っています。又その家族の方とも連絡を取り合っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情の中から御本人の暮らし方や意向希望等を汲みとり個々に合わせた対応をおこなっています。	利用者に交代制で担当職員をつけ、何でも話してもらえるような環境を整えている。職員の異動がほとんどなく、開設当初からの職員が多く、利用者、家族との信頼関係が築かれ、意向の把握を容易にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや、生い立ちを把握し、重ねて日常の生活の中で、御家族や御本人から生活歴、暮らし方を伺っています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人、1人の能力を把握し、その日の体調や気分に合わせて職員は対応しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と日常的に話し合い、御家族とは面会時や電話等で話をし医師とは往診時や受診した際に意見を聞き、作成しています。	利用者に関わる人から積極的に情報を収集し、計画作成時には、事前に訪問された家族に一覧し、意見を聴いている。出された意見は、検討し、計画に反映させている。月に一度のスタッフ会議では、計画を見直し、現状に即した計画であるか確認し合っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事を介護記録に記入しています。実践チェック表に記入し、必要に応じて口頭やスタッフノートを通して情報交換をしている。又毎月のスタッフ会議で介護の見直しを必ずおこなっています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事や外出の際には、御家族や近隣のボランティアの方々に協力を頂いています。学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬、近隣の保育園児との交流等を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬等によるボランティアの支援。地域サロンとの交流。消防署との連携による避難訓練。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族と話し合い協力医療機関を決定しています。又必要に応じて御家族が希望するかかりつけ医を受診しています。	利用者や家族の意向を大切にし、医師、歯科医師の訪問診療や緊急時の協力医療機関との連携、看護師の職員による健康管理など、充実した医療看護体制が整えられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日常の健康管理をおこなっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した際には、毎日のようにお見舞いに伺う。入院した病院の担当医と相談し、なるべく短期で退院して頂く。その後は当施設で対応するようにしています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や面会時の度に重度化、終末期のあり方について話し合いを重ねている。又かかりつけ医にも往診の際に相談しスタッフ会議で方針を共有しています。	重度化や終末期の対応について家族に意向を聴き、指針を作成し、説明した上で同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた時は、その都度、関係者間で話し合いを重ね、方針を共有し、利用者、家族共に納得して、終末期を迎えられるように取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の方の急変時の連絡体制を作成し、施設長、管理者看護師は、いつでもかけつけて対応出来るようにしている。急変、事故発生時については、スタッフ会議で話し合っています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	情報誌(清水の里だより)にて、利用者の顔写真、年齢を入れ、どのような方々がこの施設で暮している方をお知らせし、災害時の協力を依頼しています。(利用者の方々の個人情報や載せる事については御本人、御家族には同意を得ています。)地域の方と一緒に避難訓練をおこない、意見を頂いています。	地域住民や消防団も参加し、年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。消防署直通の通報装置やスプリンクラーの設置など、人命最優先の設備の充実が図られている。非常用の食料や飲料水の備蓄もなされ、非常災害時に備え、訓練参加者のリスト作りも検討している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重と利用者のプライバシーを大切に するようにスタッフ会議、日々の職務時でも職員 の意志の統一をはかり、記録上でも常に心が かけています。	職員は、利用者にとり気なく声をかけ、敬語で会 話する等、常に利用者の誇りを損なうような事 がないよう、和やかな雰囲気の中で、節度をもつ て接している。記録類は、目に触れぬ所に保管 するなど、個人情報の保護にも細心の注意をは らっている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者の方の会話には常に耳を傾けていま す。又話がしやすいような雰囲気作りをおこな い利用者の方の意見を常に尊重しています。 認知症な為利用者の方々の思いを計る為に センター方式を活用しています。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の日々の暮らしに支障のない範 囲で、出来る限り利用者の方のペースに合わ せて過ごして頂ける様に心掛けています。 但し利用者の方の体力低下等によりどうしよ うもない場合は、職員が状況に応じて声掛け をおこなっています。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	御本人様や御家族の方とも十分に話し合いを おこない支援しています。	
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者の方に何が食べたいかを尋ねたり、野 菜を切ったり、洗ったりして頂いています。準 備や後片付けも職員と一緒に出来る範囲で おこなってもらっています。季節を感じられるメ ニューを取り入れています。	利用者の嗜好を考慮した献立の作成から全て ホームで実施し、食材の下拵えから後片付けま で利用者の出来る範囲で、職員と一緒にしてい る。菜園で採れた食材を使った季節の料理は、 美味しく利用者に好評である。フランス料理の 外食等も計画している。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	栄養やカロリーを考え、利用者の方々の好み を取り入れ、利用者の方々に合わせて形態を 変えて提供しています。水分については、食 事中や10時、15時のおやつ時間で補ってい ます。入浴後にも必ず水分を取ってもらってい ます。	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後のうがいや歯磨き、義歯の方は義歯を はずして頂き洗浄をおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の方のパターンに合わせて声掛けや誘導をおこなっています。健康管理の為に排泄のチェックもおこなっています。	布パンツ、リハビリパンツ、紙おむつ等利用者の状況や排泄パターンを細かく把握し、トイレでの排泄を大切に、声かけや誘導をしている。排泄の失敗から傷ついたり、羞恥心を感じたりすることがないように、無理にオムツをさける事はしていない。また、トイレには常時ホットタオルを置いている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物の提供や、毎朝のヨーグルトの提供をおこなっている。又体操、歩行運動、お腹のマッサージ等を日々おこなっています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴担当は決めてはいますが、状況に応じていつでも入っていただけるようにしています。	入浴日は決めているが、利用者の意向に沿い毎日の入浴や、午前や午後の希望にも対応している。明るく広い浴室は段差をなくし、手摺を取り付けるなど安全面に細かい配慮がなされ、ゆっくり入浴を楽しむことができるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、昼寝の時間を設けています。但し寝たくないと言う利用者の方は、無理に寝てもらわずに自由に過ごして頂いています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方々が服薬している薬の作用や副作用を十分に理解しています。又与薬時にも日付と名前を声に出して確認して与薬しています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々の個々の能力に合わせてゲーム、散歩、外出、行事をおこなっています。又、出来る事はなるべく手をかさずに見守っています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方々に行きたい所を伺い、又御家族にも相談し、なるべく希望に沿うようにしています。食堂の横のウッドデッキを活用し季節を感じていただいています。	外出は「皆で一緒に」を基本に出かけているが、体調不良などで出かけられない時は、利用者のみでなく家族にも説明している。季節ごとの花見や外食等、外に出る機会を多く計画している。また、個々の希望に沿って、買い物や散歩等、柔軟に対応している。庭先の菜園で野菜を育てたり、戸外で過ごす機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望に沿えるように支援をおこなっています。電話でのやりとりが多いです。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、食堂等日当たりの良い空間が多く、常に季節感を味あう事が出来ています。又食堂横にウッドデッキを作りより一層季節感を味あう事が出来ています。又娯楽室には、利用者の方で作成したカレンダーを貼り、月がわかるようにしています。	玄関には可愛い手作りの人形や、利用者の楽しそうな写真が飾られ、娯楽室や食堂は日当たり良く、自然の風が通り抜け心地よく、広いウッドデッキでは、食事を楽しみながら、季節を五感で感じる事が出来る。また、身体への負担を少なくする、素材を敷き詰めた廊下や、スライド式のドアの造り等、安全面にも細かい配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室にて利用者の方々が、思い思いに話をされたり、テレビを見たり、塗り絵や折り紙をされたり自由に過ごさせていらっやいます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と十分に話し合い、御本人が使用されていた家具を置いたり危険のないように配置したりしています。	畳敷きに電動ベッドが置かれた居室は、利用者がどのような状況でも、ゆっくりと寛げる事が出来るようになっている。収納スペースも多く、すっきりと片付き移動が容易である。利用者の馴染みの家具が置かれた部屋は、静かで居心地のよい空間になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的には利用者の方の行動の自由は尊重するようにしていますが、利用者の方々の体調等を見て職員が見守りや声掛けをおこなっています。		